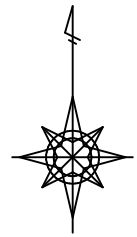


位置図 S=FREE

令和8年度 道路メンテナンス（橋梁）工事（増間橋・補修工）

断面修復工 一式
橋面補修工 一式

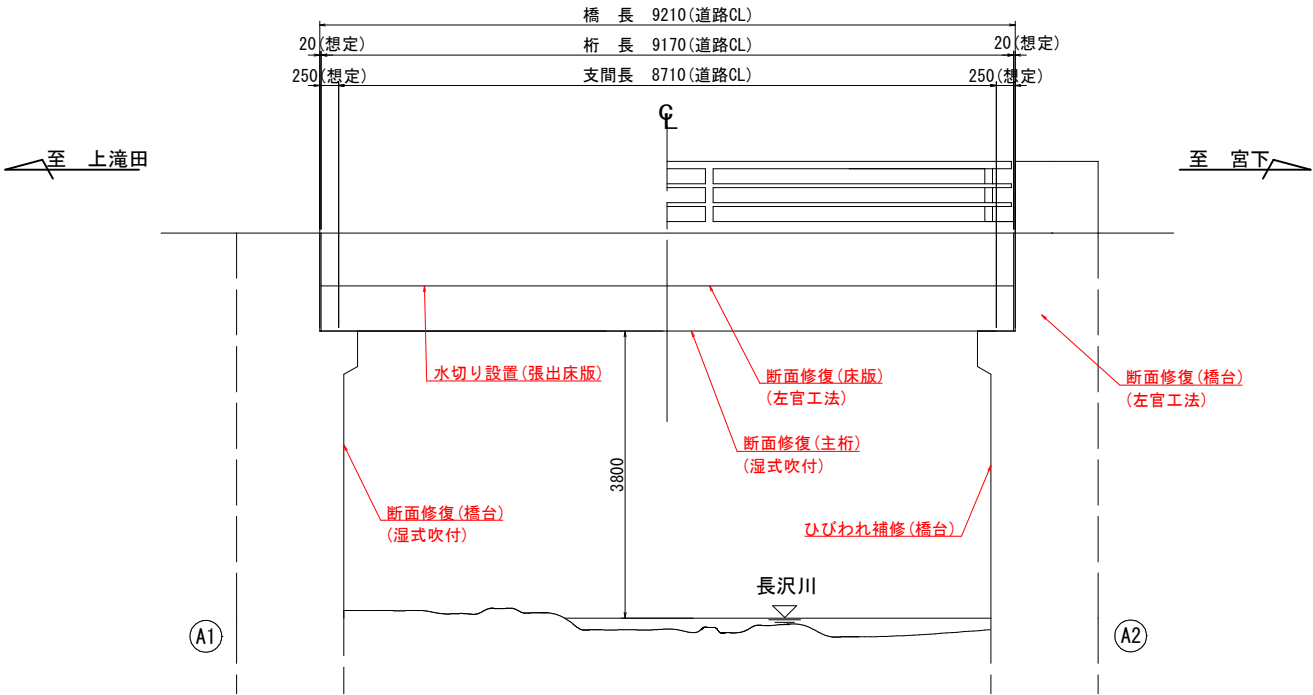


発注年度 : 令和8年度
路線河海名 : 一般県道 富山丸山線
工事箇所 : 南房総市 増間

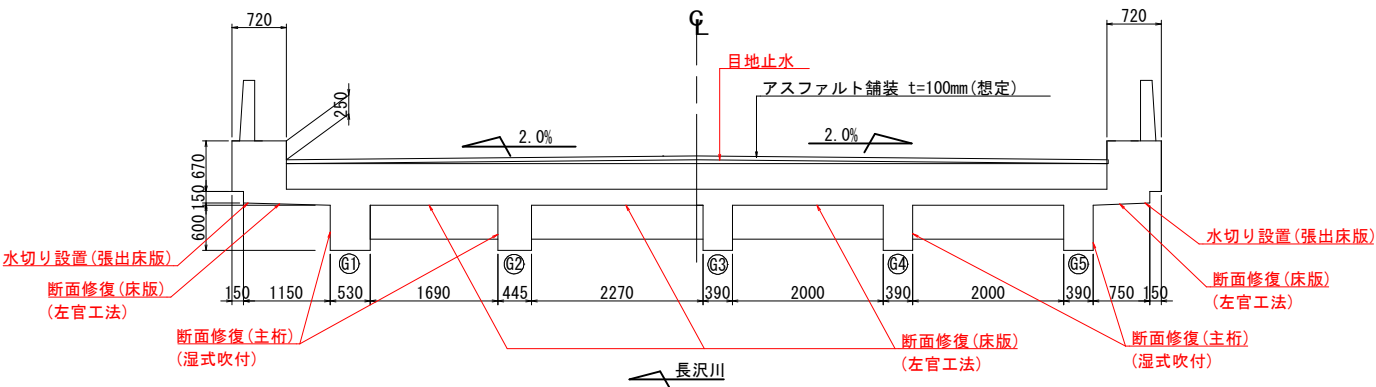
工事名	道路メンテナンス（橋梁）工事 （増間橋・補修工）		
図面名	位 置 図		
作 成 年月日	令和 8 年 7 月		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 11
会社名			
事業者名	千葉県安房土木事務所		

増間橋 補修一般図

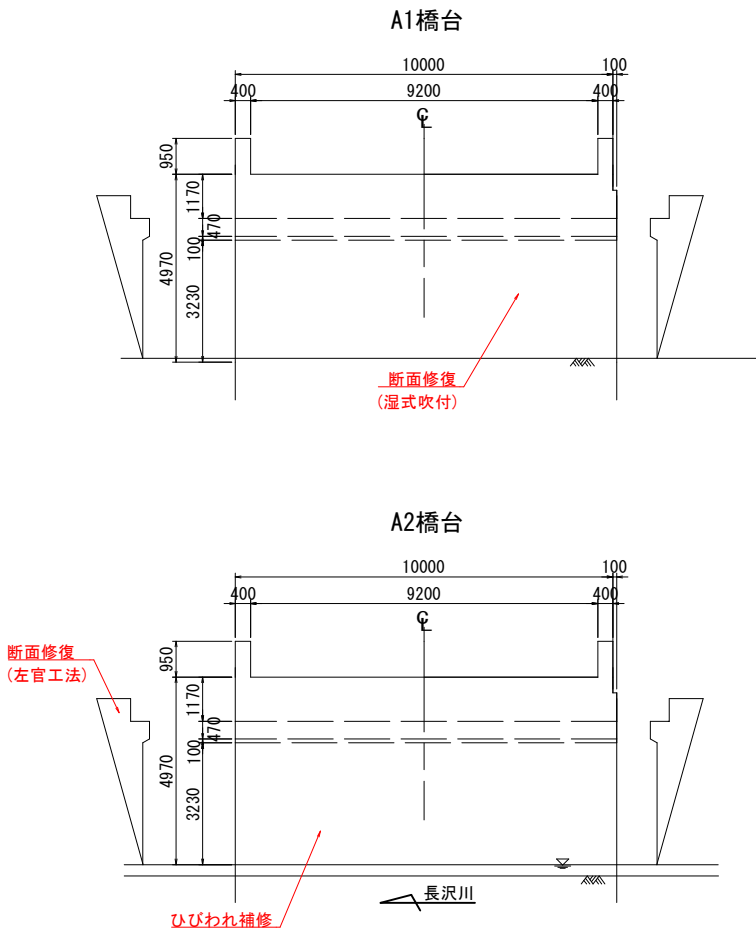
側面図 S=1:50



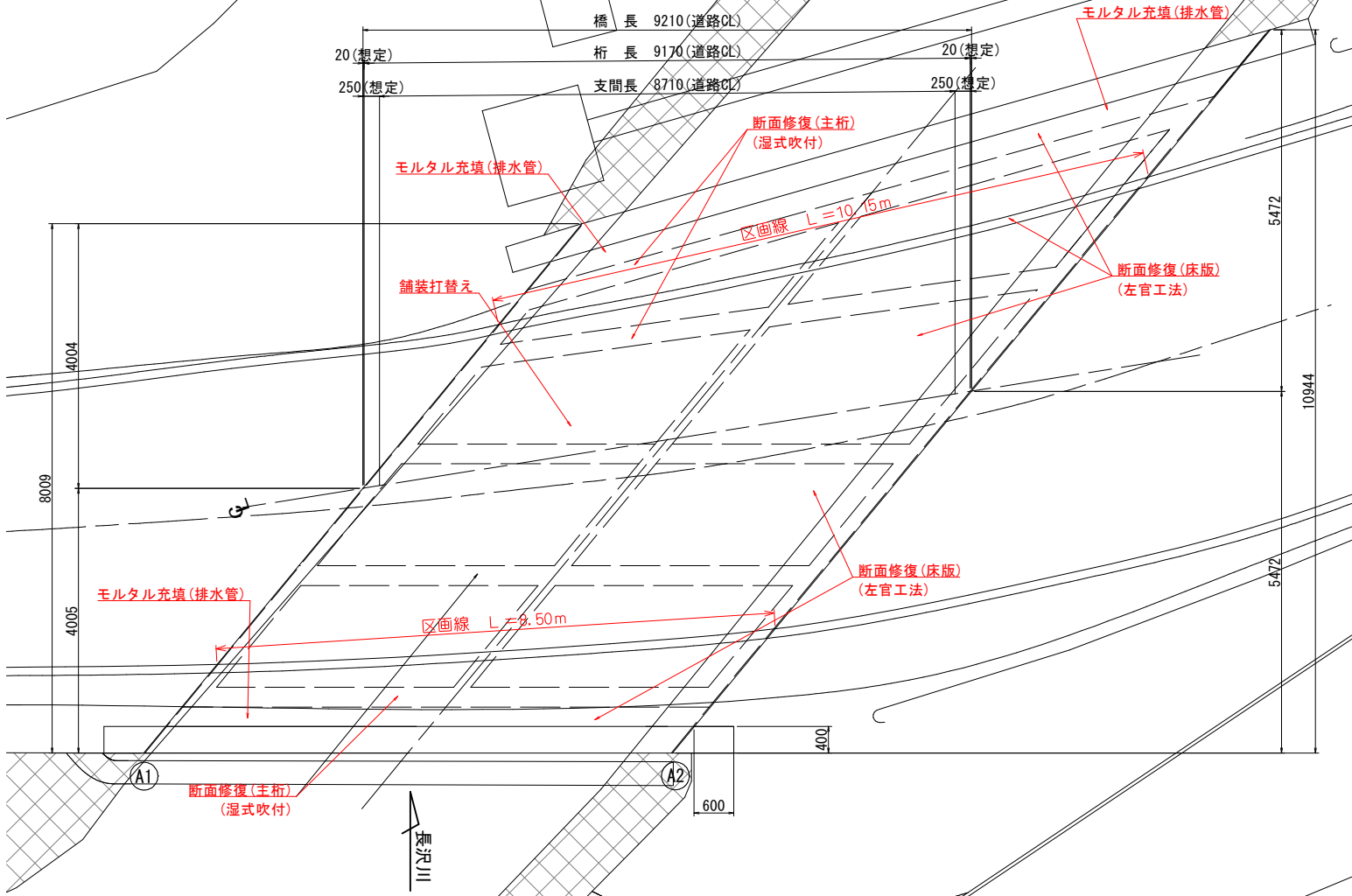
上部工断面図 S=1:50



橋台正面図 S=1:100



平面図 S=1:50



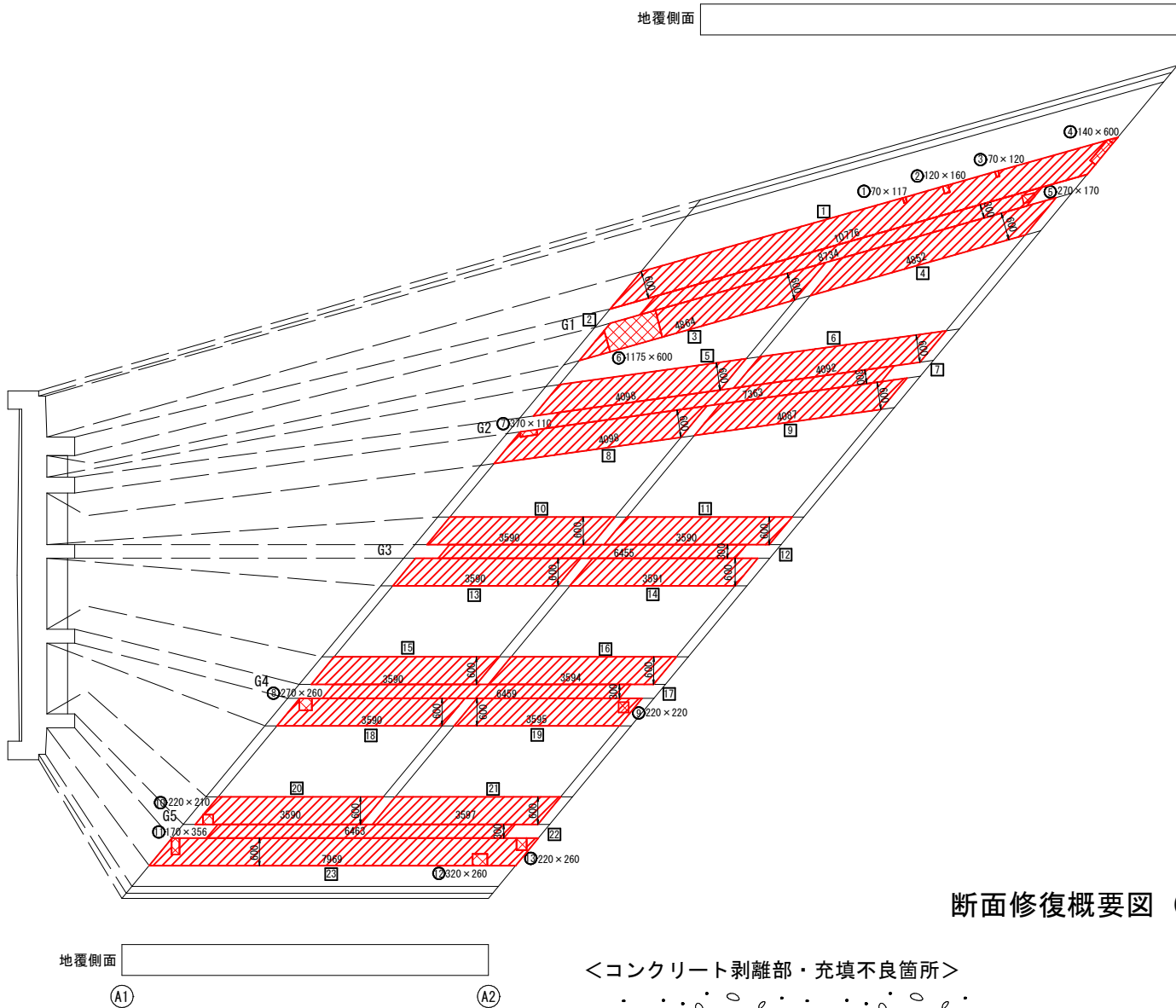
注記) 1. 完成図等がないため、3D計測を基に本図面を作成している。
施工にあたって現地確認を実施すること。

発注年度	令和 8 年度
路線河海名	一般県道 富山丸山線
工事箇所	南房総市 増間
工事名	道路メンテナンス(橋梁) 工事 (増間橋・補修工)
図面名	増間橋 補修一般図
作成年月日	令和 8 年 7 月
縮尺	図示
図面番号	2 / 11
会社名	
事業者名	千葉県安房土木事務所

増間橋 上部工補修図（その１） S=1:70

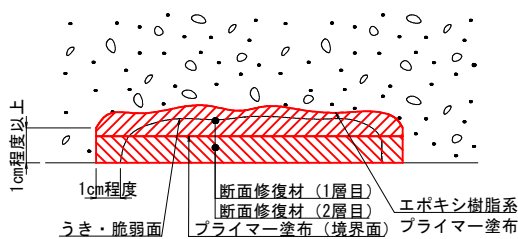
桁 下 面

主桁



断面修復概要図（吹付工法）

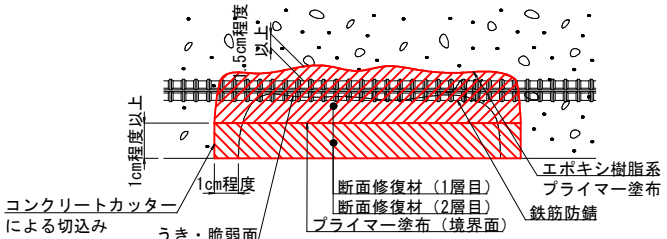
＜コンクリート剥離部・充填不良箇所＞



注記）

- ・ 施工前にテストハンマーによりたたき調査を行い、施工範囲を決定すること。
- ・ 断面修復範囲は、フェザーエッジが生じないように電動カッターによる切込みのうえ、劣化部を完全に除去すること。
- ・ 1層あたりの吹付厚は最小厚が20mm程度とすること。
- ・ 旧コンクリート表面はワイヤーブラシやグラインダー等により清掃すること。
- ・ 断面修復材接地面にはエポキシ樹脂プライマーを十分に塗布したうえで断面修復材を充填すること。
- ・ 重ね塗りをする場合には汚れや不純物が付着していないかを確認したうえで、付着性を確保するためのプライマーを塗布すること。
- ・ 断面修復面は、コテ仕上げや型枠設置などにより平滑にすること。
- ・ 断面修復面が直射日光や急激な温度変化を受ける場合やドライアップが生じる可能性がある場合は養生を行い、急激な乾燥を抑制すること。

＜鉄筋露出部＞



注記）

- ・ 施工前にテストハンマーによりたたき調査を行い、施工範囲を決定すること。
- ・ 断面修復範囲は、フェザーエッジが生じないように電動カッターによる切込みのうえ、劣化部を完全に除去すること。
- ・ 1層あたりの吹付厚は最小厚が20mm程度とすること。
- ・ カッター、はつり作業により鉄筋を切断しないように、事前に鉄筋探査機などによりかぶりの測定などを行うこと。
- ・ 鉄筋が露出する場合は鉄筋と断面修復材との付着性を確保するため、鉄筋表面に断面修復材が十分に充填できるように鉄筋から15mm以上はつること。
- ・ はつり後に鉄筋が露出したリや鉄筋が腐食している場合は、錆等の付着物を取り除いた後、鉄筋防錆材を塗布すること。
- ・ 鉄筋が著しく腐食し断面減少が生じている場合には、構造鉄筋（耐荷性能が必要な鉄筋）のみ必要定着長を確保した添え筋（健全時の鉄筋径と同径以上）を設置すること。
- ・ 旧コンクリート表面はワイヤーブラシやグラインダー等により清掃すること。
- ・ 断面修復範囲の鋼材比率を算定したうえで設計により算定した値以下であることを確認すること。
- ・ 断面修復材接地面にはエポキシ樹脂プライマーを十分に塗布したうえで断面修復材を充填すること。
- ・ 重ね塗りをする場合には汚れや不純物が付着していないかを確認したうえで、付着性を確保するためのプライマーを塗布すること。
- ・ 断面修復面は、コテ仕上げや型枠設置などにより平滑にすること。
- ・ 断面修復面が直射日光や急激な温度変化を受ける場合やドライアップが生じる可能性がある場合は養生を行い、急激な乾燥を抑制すること。

断面修復工(湿式吹付工法)主桁 数量表（鉄筋ケレン・防錆処理含む）

損傷番号	部材名	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	箇所数	面積 (m2)	体積 (m3)
1	G1主桁側面	0.070	0.117	0.080	1	0.008	0.0006
2	G1主桁側面	0.120	0.160	0.080	1	0.019	0.0015
3	G1主桁側面	0.070	0.120	0.080	1	0.008	0.0006
4	G1主桁側面	0.140	0.600	0.080	1	0.084	0.0067
5	G1主桁下面	0.270	0.170	0.080	1	0.046	0.0037
6	G1主桁側面	1.175	0.600	0.080	1	0.705	0.0564
7	G2主桁側面	0.370	0.110	0.080	1	0.041	0.0033
8	G4主桁側面	0.270	0.260	0.080	1	0.070	0.0056
9	G4主桁側面	0.220	0.220	0.080	1	0.048	0.0038
10	G5主桁側面	0.220	0.210	0.080	1	0.046	0.0037
11	G5主桁側面	0.170	0.356	0.080	1	0.061	0.0049
12	G5主桁側面	0.320	0.260	0.080	1	0.083	0.0066
13	G5主桁側面	0.220	0.260	0.080	1	0.057	0.0046
合計					13	1.276	0.1020

断面修復工(湿式吹付工法)主桁下面 数量表（鉄筋ケレン・防錆処理含まない）

損傷番号	部材名	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	箇所数	控除面積 ※ (m2)	面積 (m2)	体積 (m3)
1	G1主桁側面	10.776	0.600	0.020	1	0.119	6.347	0.1269
2	G1主桁下面	8.734	0.300	0.020	1	0.046	2.574	0.0515
3	G1主桁側面	4.864	0.600	0.020	1	0.705	2.213	0.0443
4	G1主桁側面	4.852	0.600	0.020	1	-	2.911	0.0582
5	G2主桁側面	4.098	0.600	0.020	1	-	2.459	0.0492
6	G2主桁側面	4.092	0.600	0.020	1	-	2.455	0.0491
7	G2主桁下面	7.363	0.300	0.020	1	-	2.209	0.0442
8	G2主桁側面	4.098	0.600	0.020	1	0.041	2.418	0.0484
9	G2主桁側面	4.087	0.600	0.020	1	-	2.452	0.0490
10	G3主桁側面	3.590	0.600	0.020	1	-	2.154	0.0431
11	G3主桁側面	3.590	0.600	0.020	1	-	2.154	0.0431
12	G3主桁下面	6.455	0.300	0.020	1	-	1.937	0.0387
13	G3主桁側面	3.590	0.600	0.020	1	-	2.154	0.0431
14	G3主桁側面	3.591	0.600	0.020	1	-	2.155	0.0431
15	G4主桁側面	3.590	0.600	0.020	1	-	2.154	0.0431
16	G4主桁側面	3.594	0.600	0.020	1	-	2.156	0.0431
17	G4主桁下面	6.459	0.300	0.020	1	-	1.938	0.0388
18	G4主桁側面	3.590	0.600	0.020	1	0.070	2.084	0.0417
19	G4主桁側面	3.595	0.600	0.020	1	0.048	2.109	0.0422
20	G5主桁側面	3.590	0.600	0.020	1	0.046	2.108	0.0422
21	G5主桁側面	3.597	0.600	0.020	1	-	2.158	0.0432
22	G5主桁下面	6.463	0.300	0.020	1	-	1.939	0.0388
23	G5主桁側面	7.969	0.600	0.020	1	0.201	4.580	0.0916
合計					23	1.276	57.818	1.1566

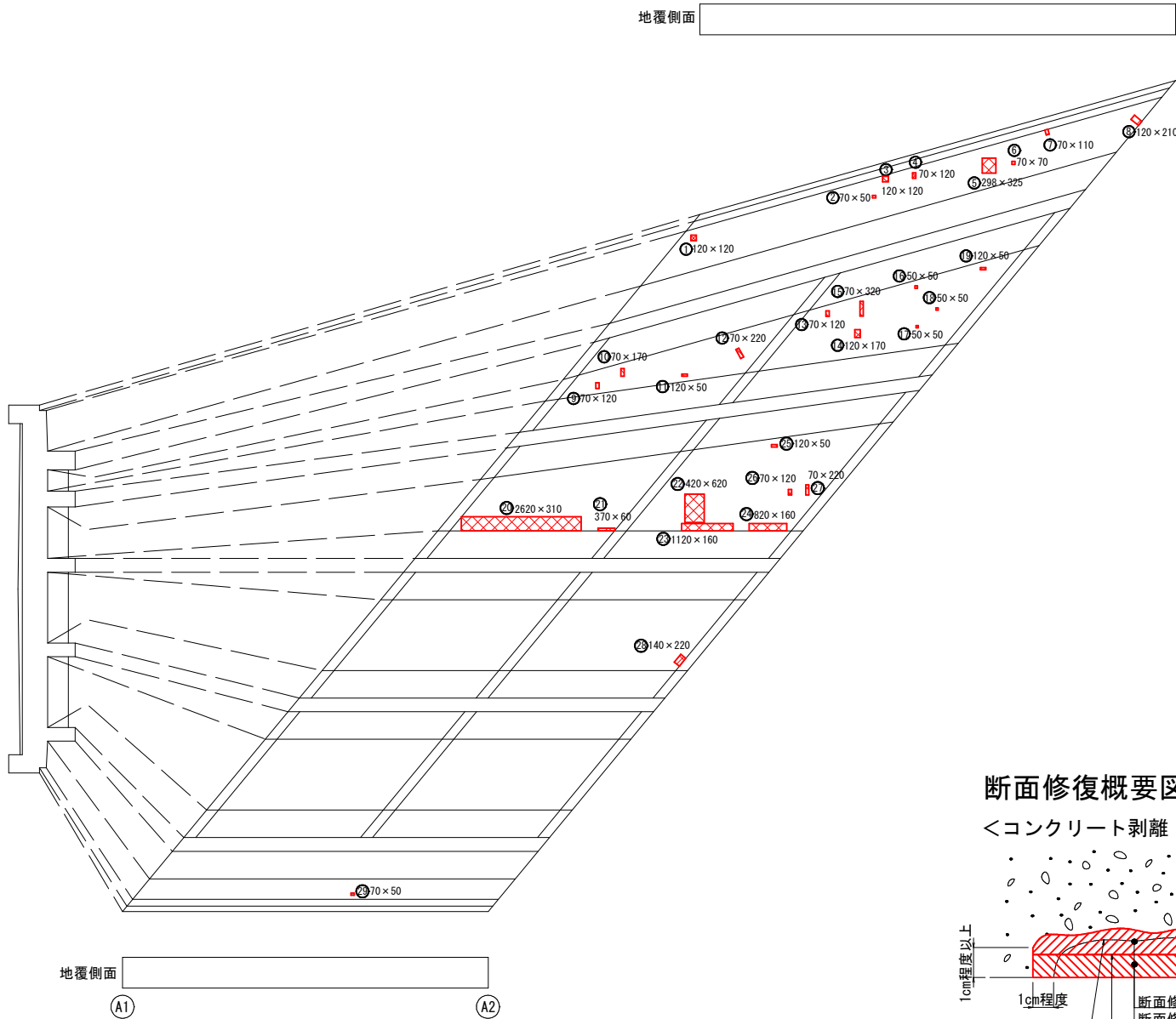
- 注記）1. 施工前にはたたき調査・鉄筋探査を実施し、施工手法および数量を確定すること。
2. 施工深さについて、鉄筋露出箇所は鉄筋かぶりを想定し、鉄筋裏までとした。剥離・充填不良箇所は、現地確認における充填不良・ジャンカの深さ20mm程度であることから、20mmと設定した。
3. なお、かぶり不足が生じている箇所については、かぶり厚が35mm程度以上となるよう増し厚により対応すること。

発注年度 : 令和8年度
路線河海名 : 一般県道 富山丸山線
工事箇所 : 南房総市 増間

工事名	道路メンテナンス（橋梁）工事 （増間橋・補修工）		
図面名	増間橋 上部工断面修復図（その１）		
作成年月日	令和 8年 7月		
縮尺	図示	図面番号	3 / 11
会社名			
事業者名	千葉県安房土木事務所		

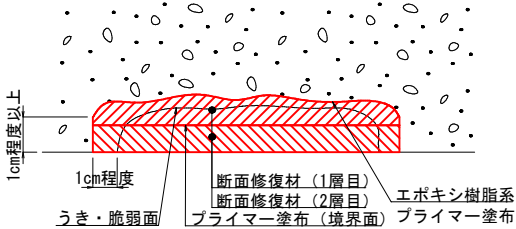
増間橋 上部工補修図（その2） S=1:70
床版

桁 下 面



断面修復概要図（左官工法）

＜コンクリート剥離・充填不良箇所＞



- 注記）
- ・ 施工前にテストハンマーによりたたき調査を行い、施工範囲を決定すること。
 - ・ 断面修復範囲は、フェザーエッジが生じないように電動カッターによる切込みのうえ、最小断面修復厚が10mmかつ劣化部を完全に除去すること。
 - ・ カッター、はつり作業により鉄筋を切断しないように、事前に鉄筋探査機などによりかぶりの測定などを行うこと。
 - ・ 旧コンクリート表面はワイヤーブラシやグラインダー等により清掃すること。
 - ・ 断面修復材接地面にはエポキシ樹脂プライマーを十分に塗布したうえで断面修復材を充填すること。
 - ・ 重ね塗りをする場合には汚れや不純物が付着していないかを確認したうえで、付着性を確保するためのプライマーを塗布すること。
 - ・ 断面修復面は、コテ仕上げや型枠設置などにより平滑にすること。
 - ・ 断面修復面が直射日光や急激な温度変化を受ける場合やドライアップが生じる可能性がある場合は養生を行い、急激な乾燥を抑制すること。

断面修復工(左官工法)床版下面 数量表（鉄筋ケレン・防錆処理含まない）

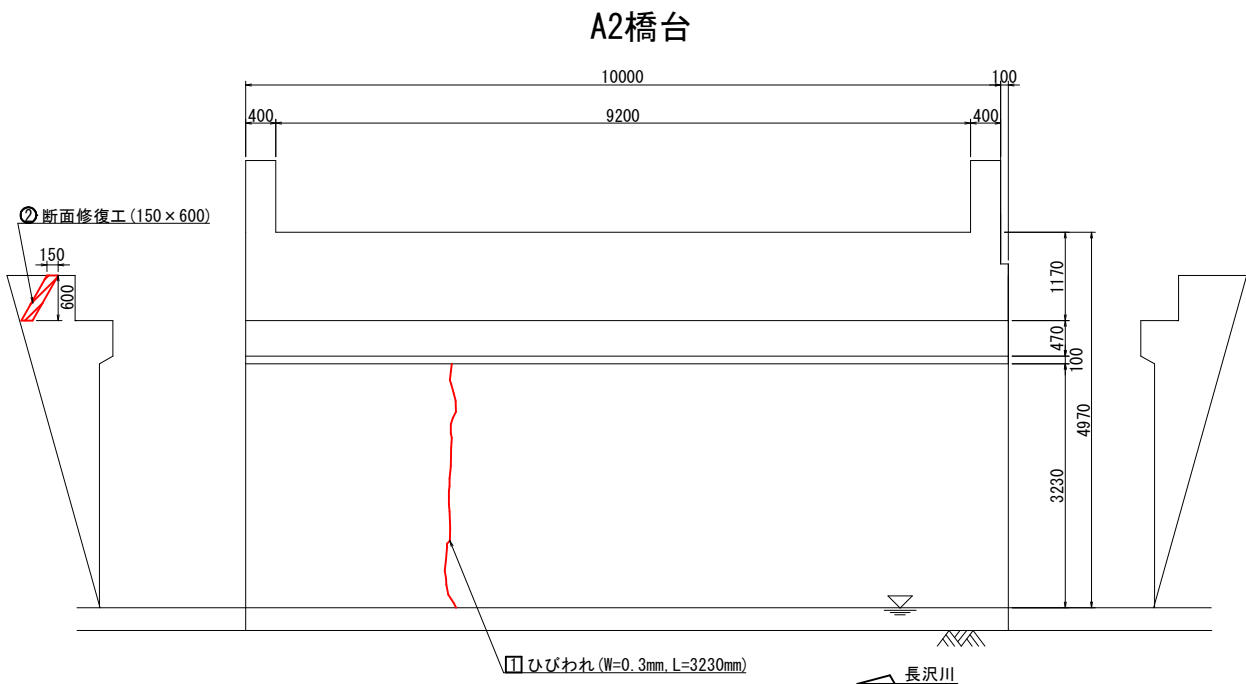
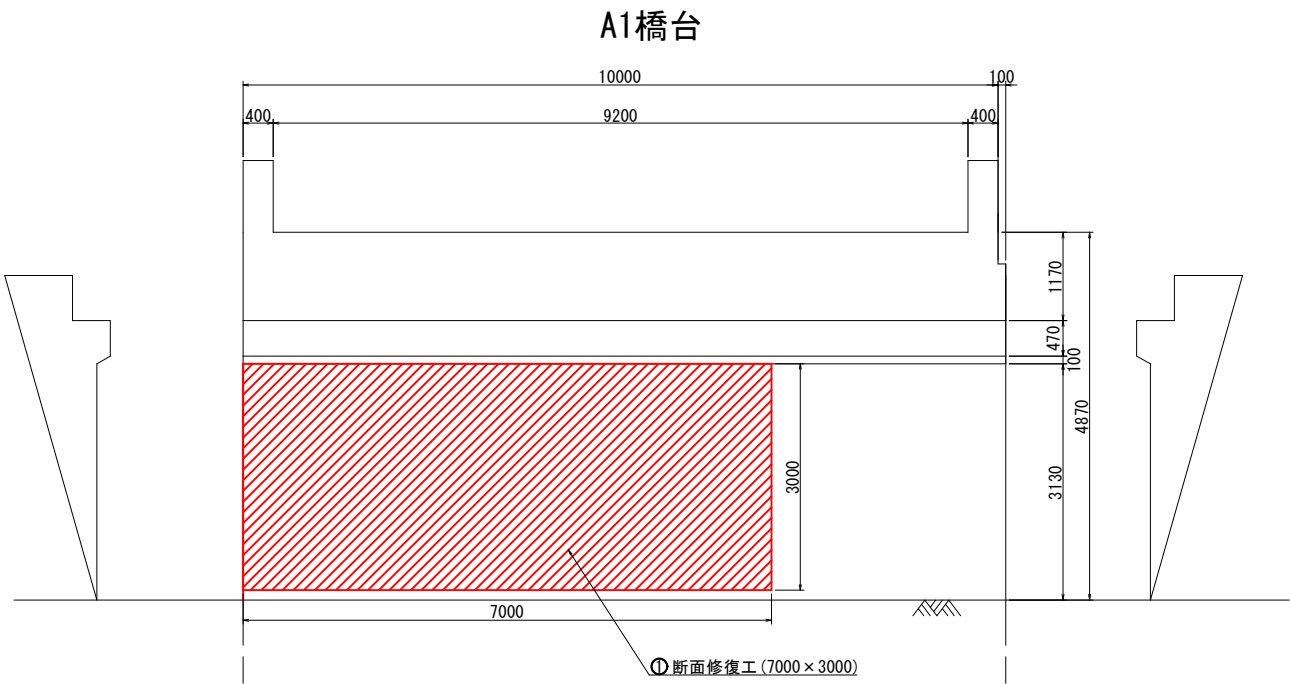
損傷番号	部材名	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	箇所数	面積 (m2)	体積 (m3)
1	床版下面	0.120	0.120	0.020	1	0.014	0.0003
2	床版下面	0.070	0.050	0.020	1	0.004	0.0001
3	床版下面	0.120	0.120	0.020	1	0.014	0.0003
4	床版下面	0.070	0.120	0.020	1	0.008	0.0002
5	床版下面	0.298	0.325	0.020	1	0.097	0.0019
6	床版下面	0.070	0.070	0.020	1	0.005	0.0001
7	床版下面	0.070	0.110	0.020	1	0.008	0.0002
8	床版下面	0.120	0.210	0.020	1	0.025	0.0005
9	床版下面	0.070	0.120	0.020	1	0.008	0.0002
10	床版下面	0.070	0.170	0.020	1	0.012	0.0002
11	床版下面	0.120	0.050	0.020	1	0.006	0.0001
12	床版下面	0.070	0.220	0.020	1	0.015	0.0003
13	床版下面	0.070	0.120	0.020	1	0.008	0.0002
14	床版下面	0.120	0.170	0.020	1	0.020	0.0004
15	床版下面	0.070	0.320	0.020	1	0.022	0.0004
16	床版下面	0.050	0.050	0.020	1	0.003	0.0001
17	床版下面	0.050	0.050	0.020	1	0.003	0.0001
18	床版下面	0.050	0.050	0.020	1	0.003	0.0001
19	床版下面	0.120	0.050	0.020	1	0.006	0.0001
20	床版下面	2.620	0.310	0.020	1	0.812	0.0162
21	床版下面	0.370	0.060	0.020	1	0.022	0.0004
22	床版下面	0.420	0.620	0.020	1	0.260	0.0052
23	床版下面	1.120	0.160	0.020	1	0.179	0.0036
24	床版下面	0.820	0.160	0.020	1	0.131	0.0026
25	床版下面	0.120	0.050	0.020	1	0.006	0.0001
26	床版下面	0.070	0.120	0.020	1	0.008	0.0002
27	床版下面	0.070	0.220	0.020	1	0.015	0.0003
28	床版下面	0.140	0.220	0.020	1	0.031	0.0006
29	床版下面	0.070	0.050	0.020	1	0.004	0.0001
合計					29	1.749	0.0351

- 注記）1. 施工前にはたたき調査・鉄筋探査を実施し、施工寸法および数量を確定すること。
2. 施工深さについて、現地確認における充填不良・ジャンカの深さ20mmを基にした。
3. 現地確認のうえ鉄筋露出がみられ鉄筋腐食等が生じている場合は鉄筋のケレン・防錆処理のうえ対応すること。

発注年度：令和8年度
路線河海名：一般県道 富山丸山線
工事箇所：南房総市 増間

工事名	道路メンテナンス（橋梁）工事 （増間橋・補修工）		
図面名	増間橋 上部工補修図（その2）		
作成年月日	令和 8 年 7 月		
縮尺	図示	図面番号	4 / 11
会社名			
事業者名	千葉県安房土木事務所		

増間橋 橋台補修図 S=1:50



断面修復工(吹付工法) 数量表 (鉄筋ケレン・防錆処理含まない)

	損傷番号	部材名	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	箇所数	面積 (m2)	体積 (m3)
A1橋台	①	縦壁	7.000	3.000	0.020	1	21.000	0.4200
						合計	1	21.000
								0.4200

断面修復工(左官工法) 数量表 (鉄筋ケレン・防錆処理含まない)

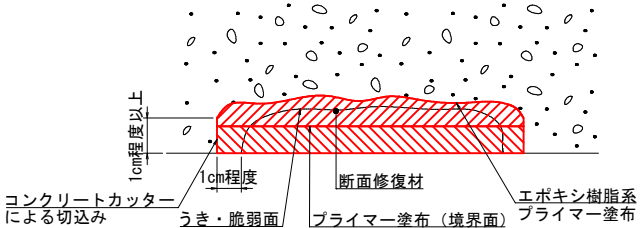
	損傷番号	部材名	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	箇所数	面積 (m2)	体積 (m3)
A2橋台	②	翼壁	0.150	0.600	0.050	1	0.090	0.0045
						合計	1	0.090
								0.0045

ひびわれ注入工数量表

	損傷番号	部材名	ひびわれ		箇所	ひびわれ延長 (m)
			幅 (mm)	長さ (m)		
A2橋台	㐍	縦壁	0.300	3.230	1	3.230
合計						1
						3.230

断面修復概要図

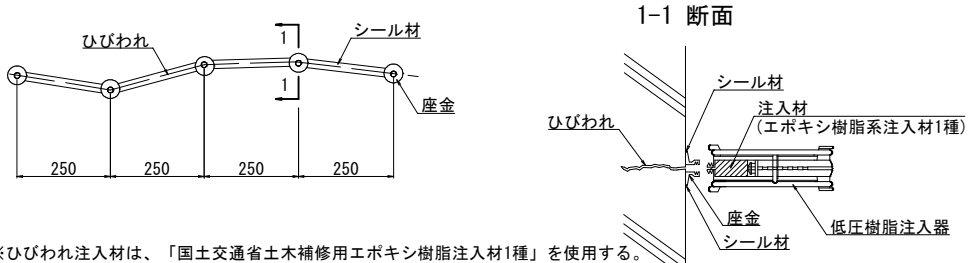
<コンクリート剥離・うき部>



- 注記)
- ・施工前にテストハンマーによりたたき調査を行い、施工範囲を決定すること。
 - ・断面修復範囲は、フェザーエッジが生じないように電動カッターによる切込みのうえ、劣化部を完全に除去すること。
 - ・湿式吹付の1層あたりの吹付厚は20～30mm程度となるようにすること。
 - ・左官工法の断面修復厚は10mmが最小となるようにすること。
 - ・カッター、はつり作業により鉄筋を切断しないように、事前に鉄筋探査機などによりかぶりの測定などを行うこと。
 - ・旧コンクリート表面はワイヤーブラシやグラインダー等により清掃すること。
 - ・断面修復材接地面にはエポキシ樹脂プライマーを十分に塗布したうえで断面修復材を充填すること。
 - ・重ね塗りをする場合には汚れや不純物が付着していないかを確認したうえで、付着性を確保するためのプライマーを塗布すること。
 - ・断面修復面は、コテ仕上げや型枠設置などにより平滑にすること。
 - ・断面修復面が直射日光や急激な温度変化を受ける場合やドライアップが生じる可能性がある場合は養生を行い、急激な乾燥を抑制すること。
 - ・A1橋台の縦壁は吹付工法、A2橋台の翼壁は左官工法を想定する。

ひびわれ注入工概要図

(幅0.2～1.0mm以下のひびわれ)



※ひびわれ注入材は、「国土交通省土木補修用エポキシ樹脂注入材1種」を使用する。

- 注記)
- ・適用範囲はひびわれ幅0.2mm以上、1.0mm未満とする。
 - ・ひびわれ幅1.0mm以上の場合は、ひびわれ充填とすること。
 - ・施工前にひびわれ周辺をテストハンマーによりたたき調査を行い、うきが生じていないかを確認すること。
 - ・うきが確認された場合は、うきの要因を確認し、鋼材腐食等が見られる場合は断面修復を行うこと。
 - ・ひびわれ幅をクラックゲージ等により計測し、ひびわれ注入、充填の範囲を決定すること。
 - ・ひびわれ幅が設計図に対し進行が見られる場合は注入材の規格を見直すこと。
 - ・ひびわれ注入範囲に漏水や水かかりが生じないように養生すること。
 - ・ひびわれ注入前には注入口周辺をワイヤーブラシやグラインダー等により清掃すること。
 - ・注入器は低圧注入器とし、使用する注入器及びひびわれ幅から適切な間隔（メーカー等による規定値に基づく）に設置すること。
 - ・ひびわれ注入口以外のひびわれ部には樹脂漏れなどを防止するためシール材で養生すること。
 - ・ひびわれ注入後にはシール材をグラインダー等により除去し、空隙や隙間が生じていないか確認すること。

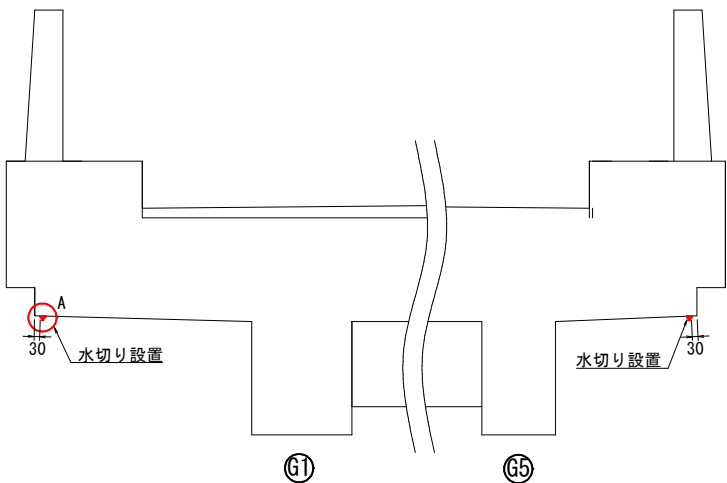
発注年度 : 令和8年度
路線河海名 : 一般県道 富山丸山線
工事箇所 : 南房総市 増間

注記) 1. 施工前には現地確認を実施し、施工寸法および数量を確定すること。

工事名	道路メンテナンス（橋梁）工事 （増間橋・補修工）		
図面名	増間橋 橋台補修図		
作成年月日	令和 8 年 7 月		
縮尺	図示	図面番号	5 / 11
会社名			
事業者名	千葉県安房土木事務所		

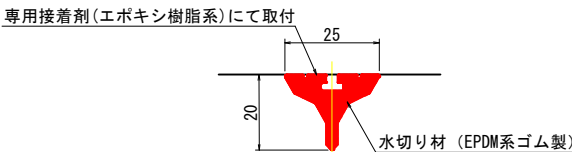
増間橋 水切り設置図

上部工断面図 S=1:20



水切り詳細図 S=1:1

【A部】

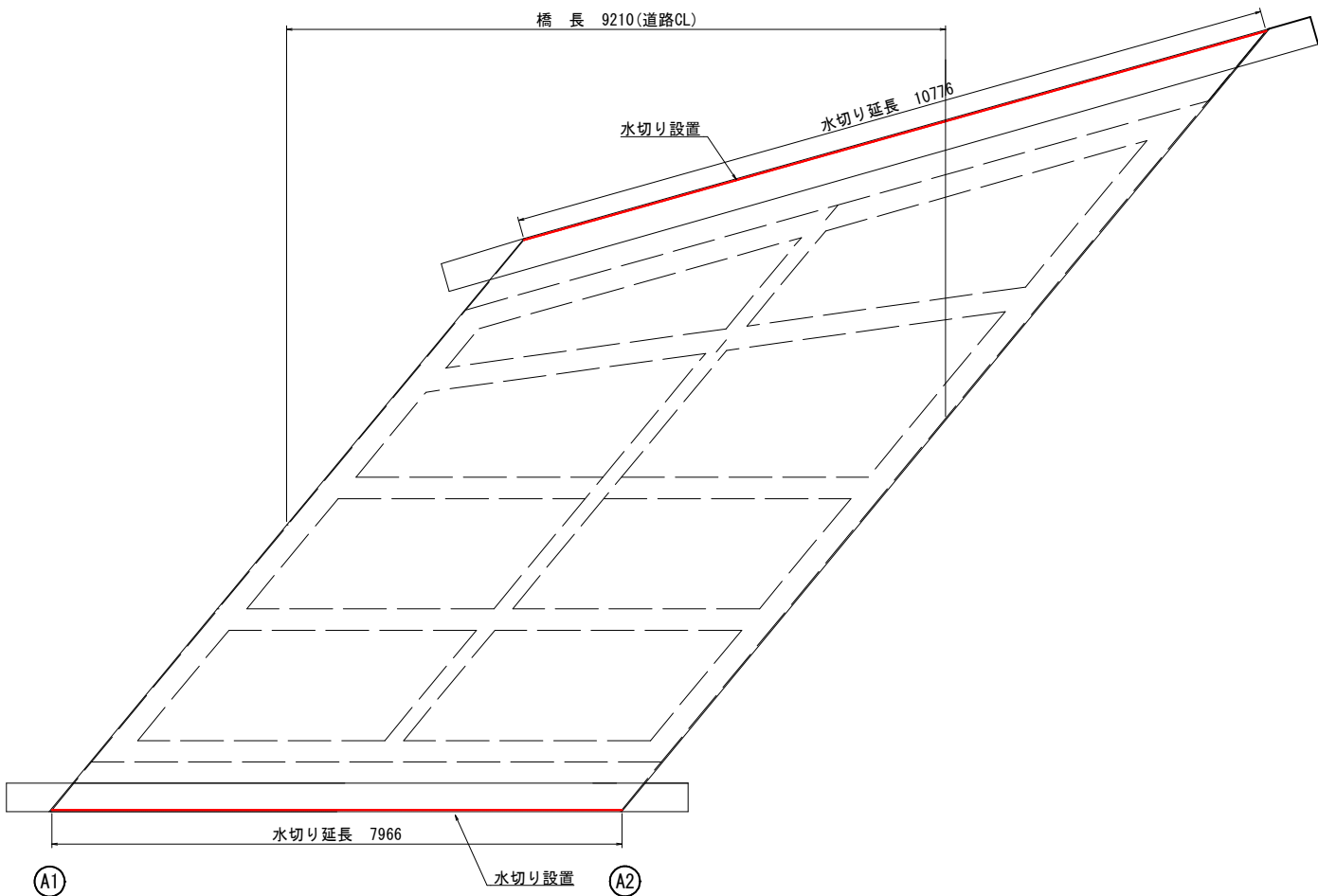


補修手順

下地処理
下地処理後の確認・準備
接着材塗布
水切り材設置工
硬化養生
設置後状況の出来形の確認
設置工完了

平面図 S=1:50

橋長 9210(道路CL)



数量表

細別	規格	単位	合計	備考
水切り材	10.776、7.966	m	18.7	EPDMゴムスポンジ
接着剤塗布	1液常温硬化型、 変形シリコーンエポキシ樹脂系	kg	0.6	塗布量：0.135g/cm2 厚さ1mm

発注年度：令和8年度
路線河海名：一般県道 富山丸山線
工事箇所：南房総市 増間

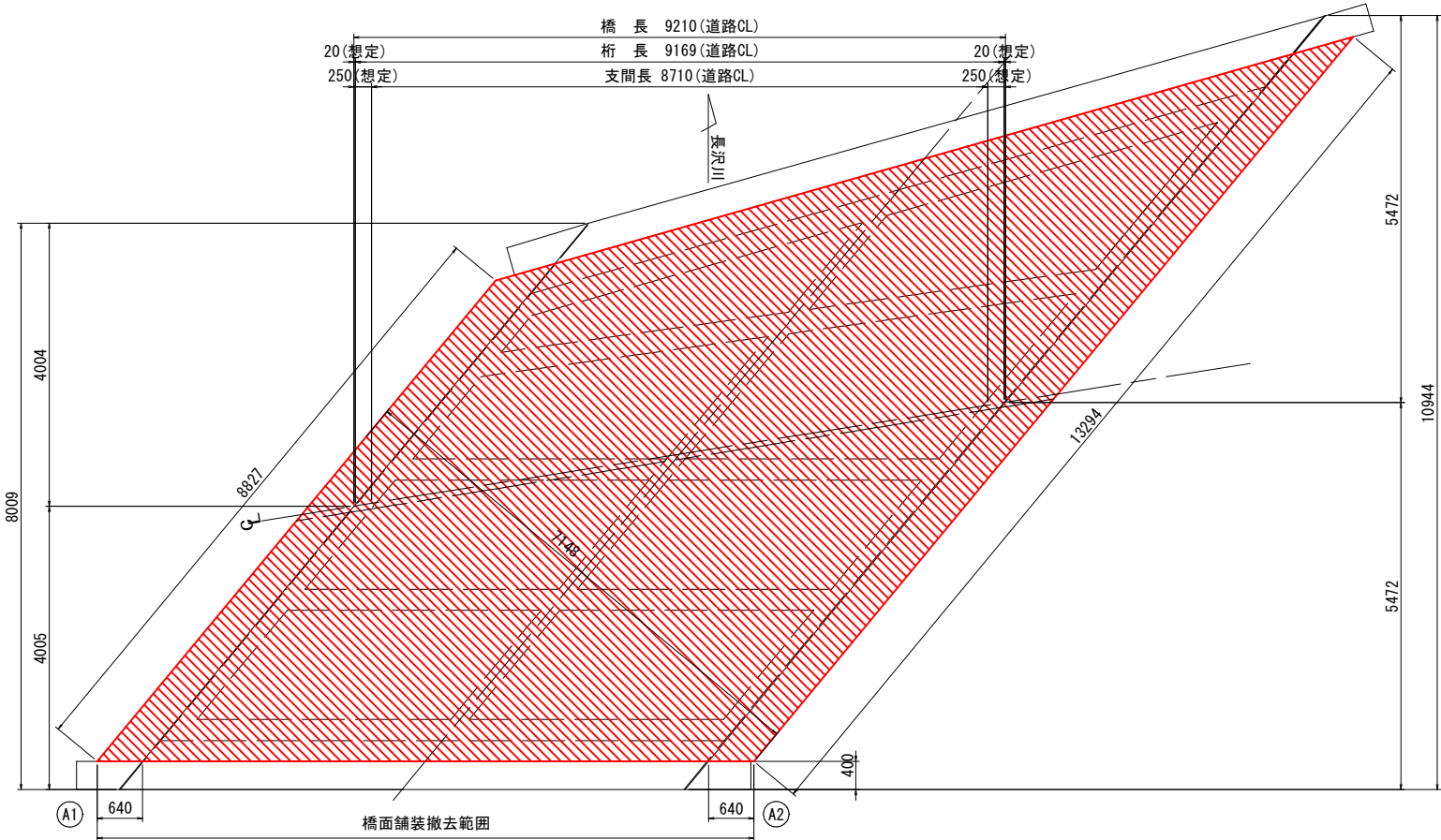
注記) 1. 施工前には現地確認のうえ施工寸法及び数量を確定すること。
2. 水切り設置前に設置面を十分に下地処理・清掃を実施すること。

工事名	道路メンテナンス(橋梁)工事 (増間橋・補修工)		
図面名	増間橋 水切り設置図		
作成 年月日	令和 8 年 7 月		
縮尺	図示	図面番号	6 / 11
会社名			
事業者名	千葉県安房土木事務所		

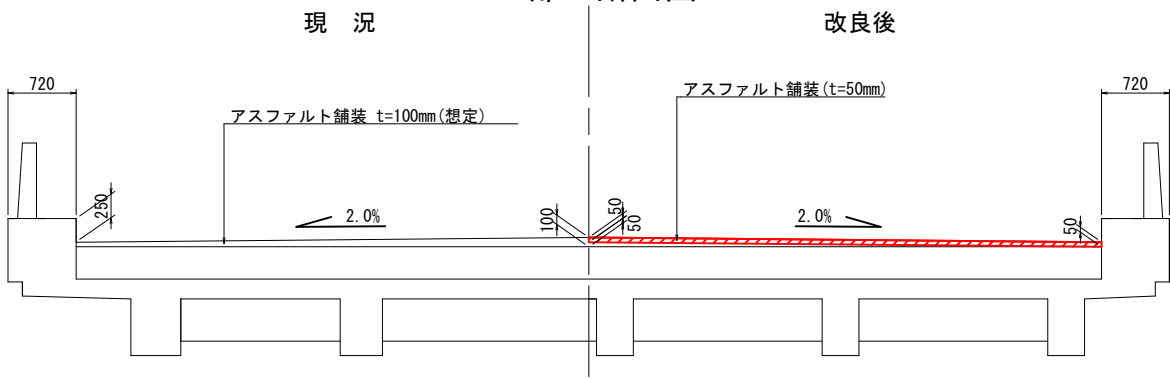
増間橋 橋面補修図

平面図 S=1:50

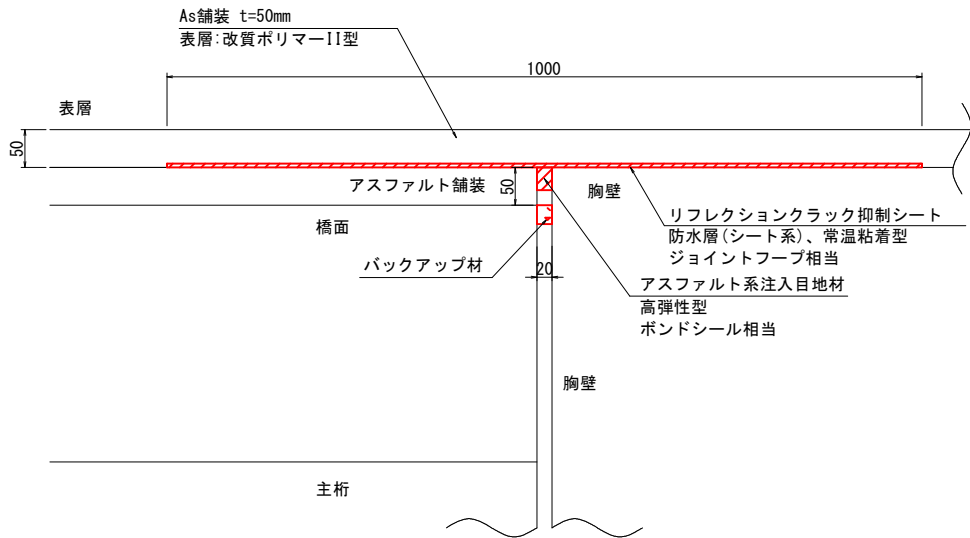
既設撤去



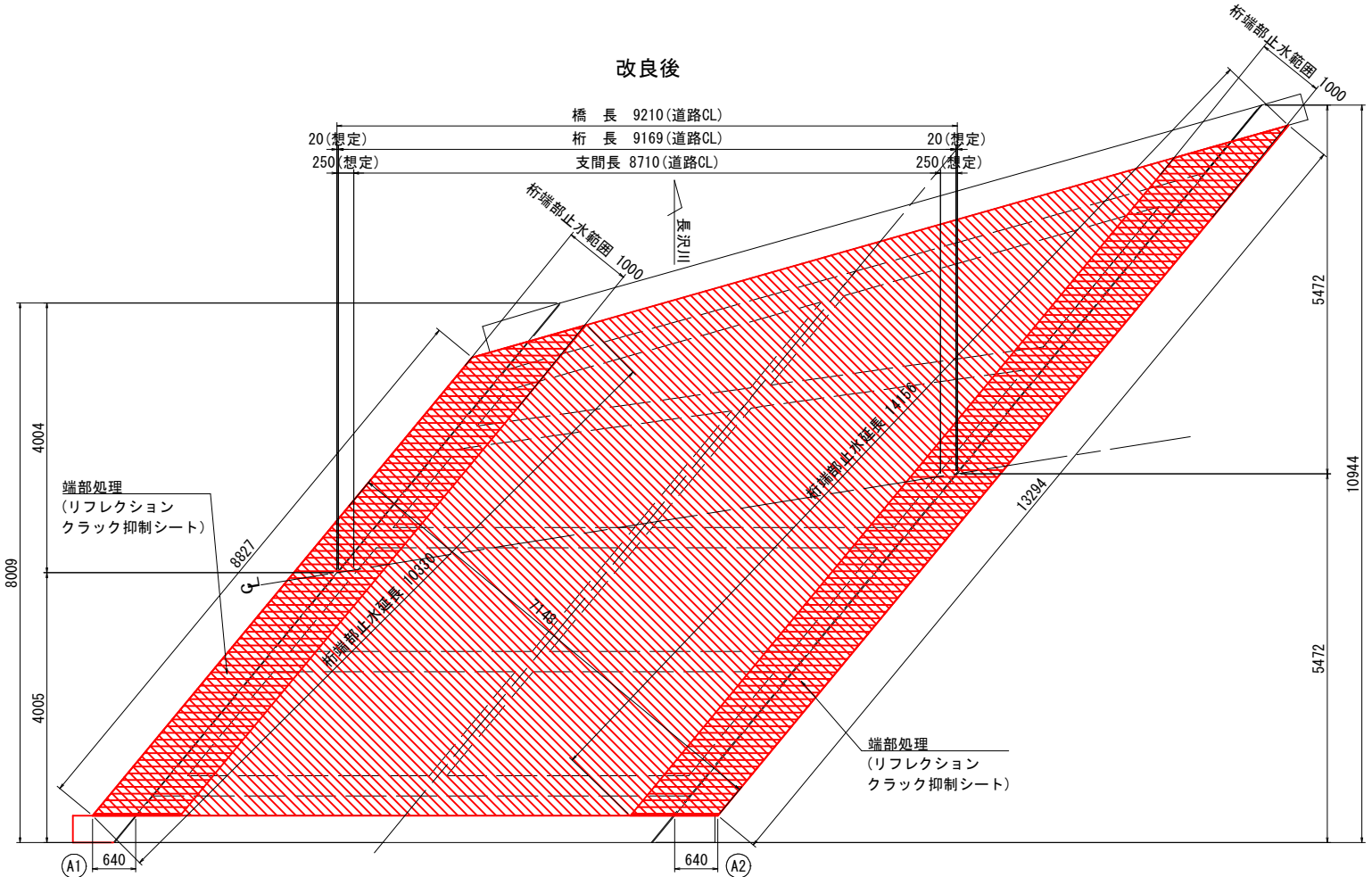
上部工断面図 S=1:40



伸縮目地補修概要図 S=1:5



改良後



橋面補修工 数量表

		(1橋梁当たり)	
工 種	項 目	規格・寸法	単位 数 量
橋面舗装	舗装版切断	t=50mm, アスファルト	m 31.3
	舗装版撤去	t=50mm, アスファルト	m2 79.1
	搬運搬	アスファルト殻 (参考重量=9.2t)	m3 4.0
	舗装工	表層: t=50mm, 改質ポリマーII型	m2 79.1

桁端部止水対策工 数量表

		(1橋梁当たり)	
工 種	項 目	規格・寸法	単位 数 量
目地止水対策工	リフレクションクラック抑制シート	常温粘着型, ジョイントフープ相当	m 24.4
			m2 24.4

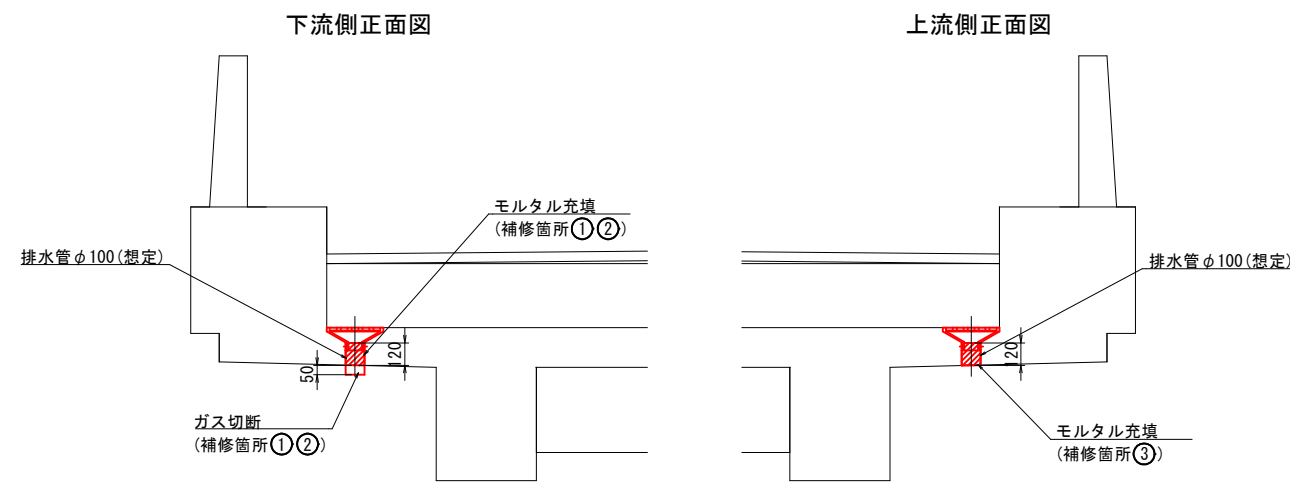
注記) 1. 施工前には現地確認のうえ施工寸法及び数量を確定すること。
2. また、舗装構成や厚さが不明であるため、想定数量として計画している。
施工前には舗装構成等の確認を実施すること。

発注年度 : 令和8年度
路線河海名: 一般県道 富山丸山線
工事箇所 : 南房総市 増間

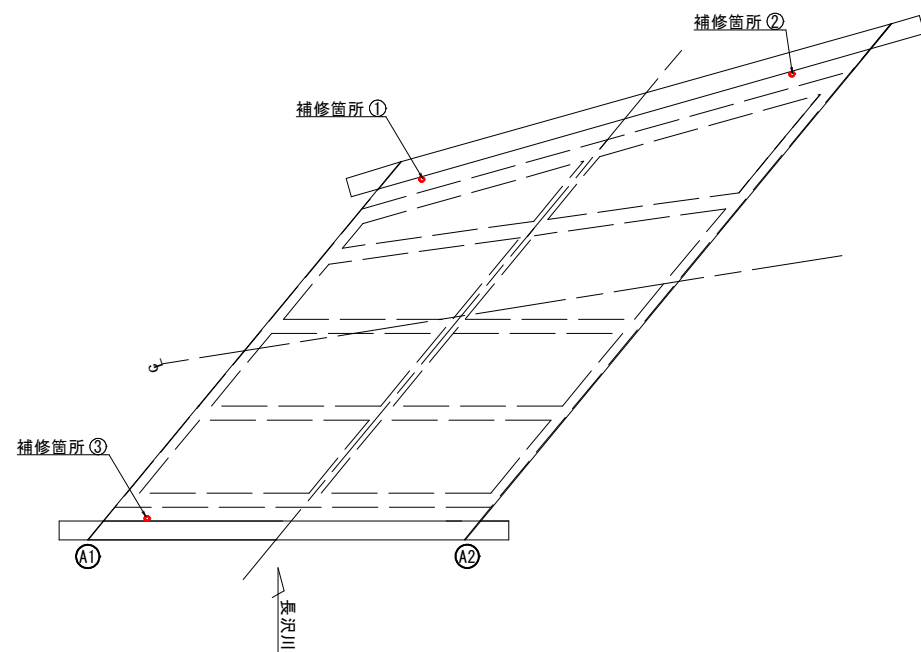
工事名	道路メンテナンス(橋梁)工事 (増間橋・補修工)		
図面名	増間橋 橋面補修図		
作成年月日	令和 8 年 7 月		
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 11
会社名			
事業者名	千葉県安房土木事務所		

増間橋 排水管補修図

補修箇所断面図 S=1:20



位置図 S=1:80



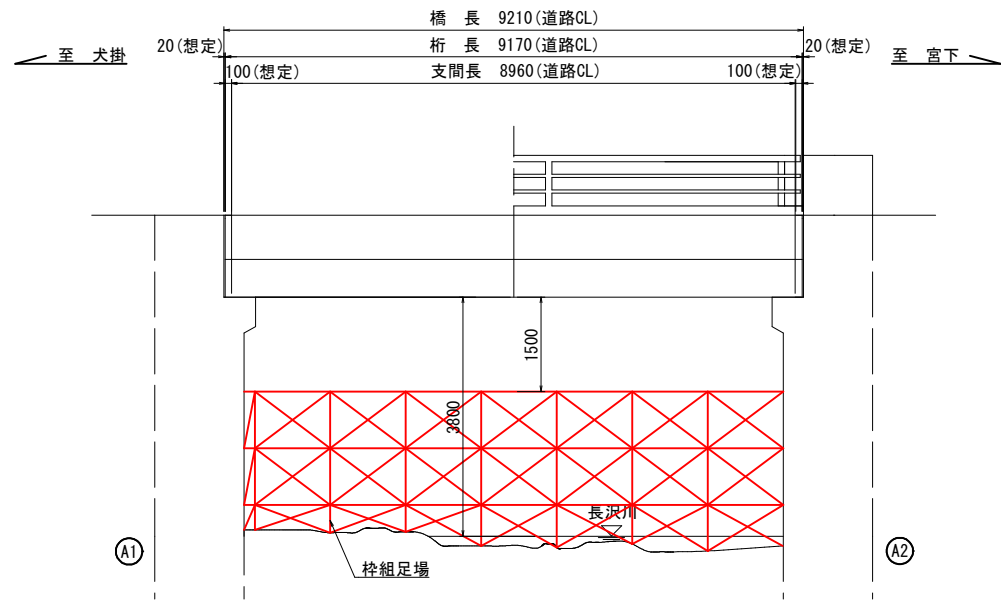
排水装置補修工 数量表 (1橋梁当たり)				
工 種	項 目	規格・寸法	単 位	数 量
モルタル充填			m3	0.003
ガス切断		φ100×2箇所	m	0.6

注記) 1. 施工前には現地確認のうえ施工寸法及び数量を確定すること。

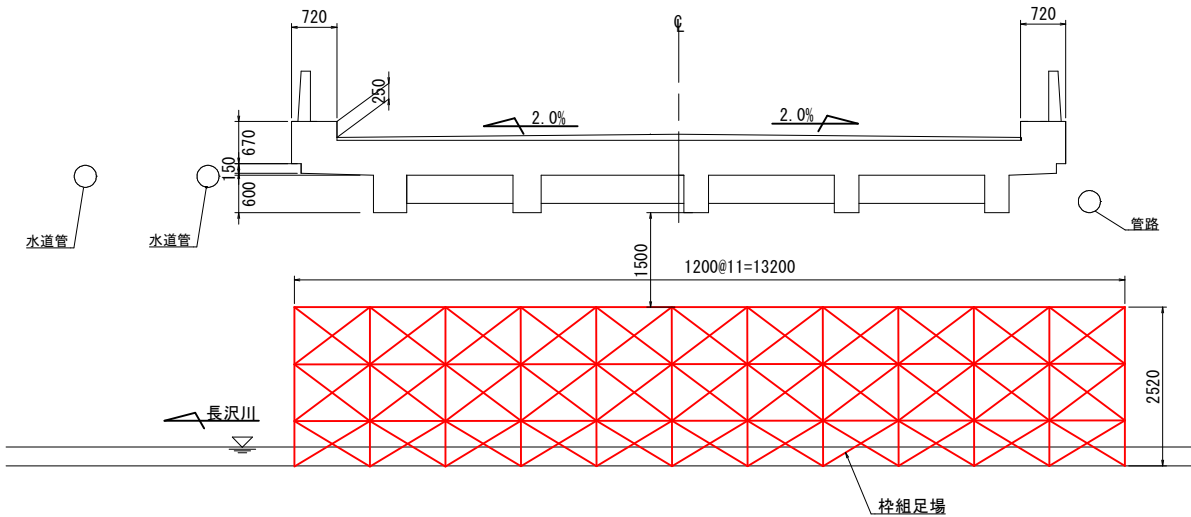
発注年度 : 令和8年度			
路線河海名 : 一般県道 富山丸山線			
工事箇所 : 南房総市 増間			
工事名	道路メンテナンス(橋梁)工事 (増間橋・補修工)		
図面名	増間橋 排水管補修図		
作成 年月日	令和 8 年 7 月		
縮 尺	図 示	図面番号	8 / 11
会社名			
事業者名	千葉県安房土木事務所		

増間橋 仮設図（参考図） S=1:60

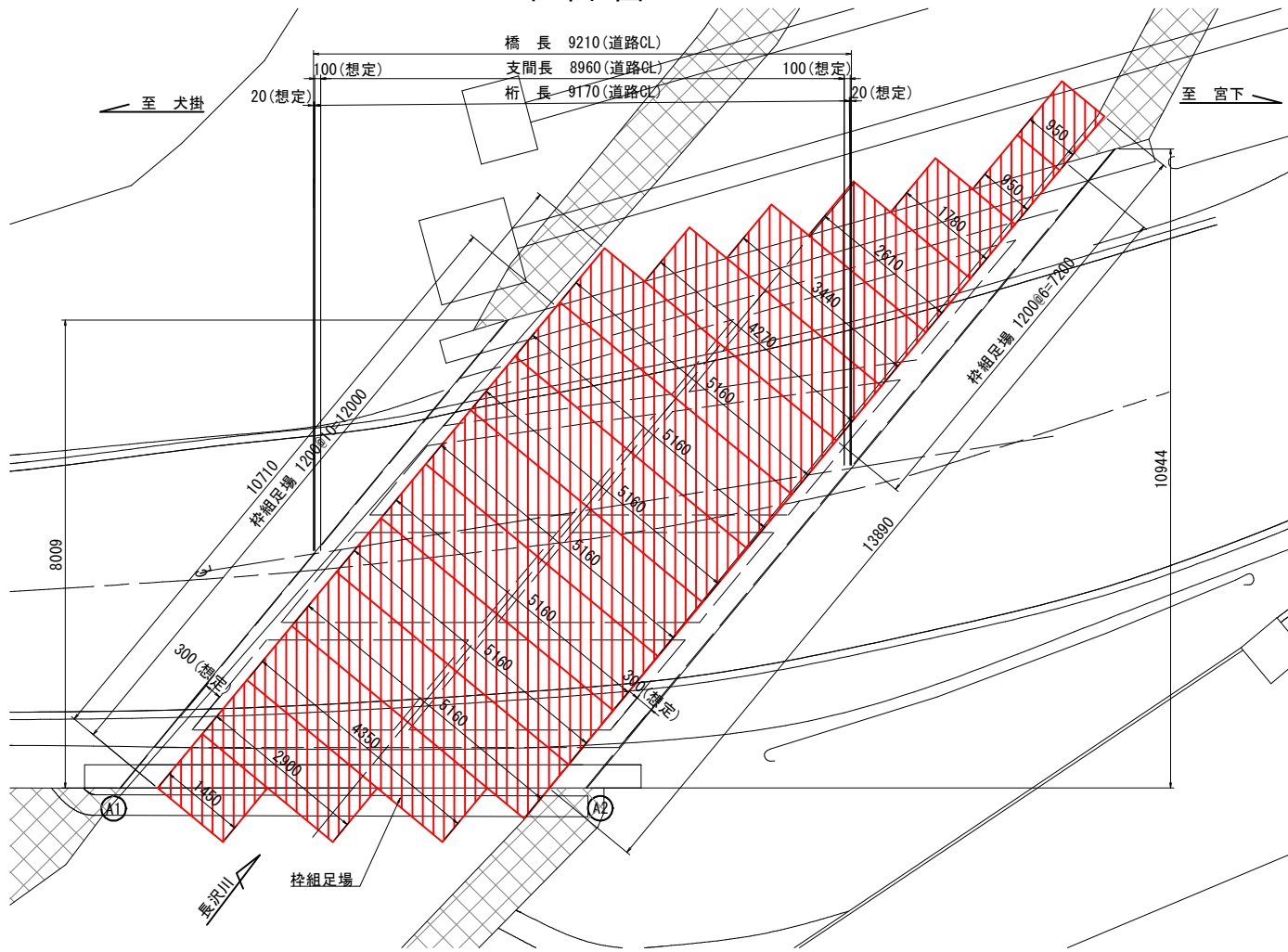
側面図



断面図（中央部）



平面図



数量表（足場工）

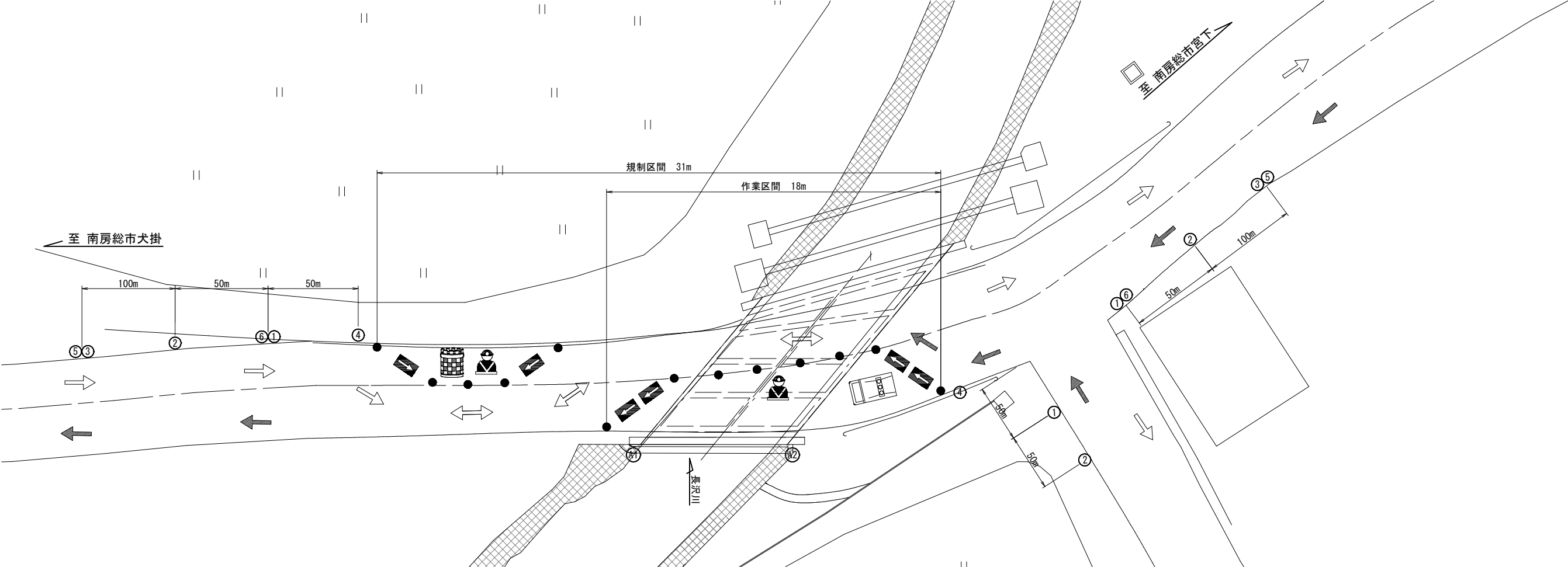
項目	規格・仕様	単位	数量	備考
足場工	栓組足場	掛m2	148.2	

注記） 1. 施工前には現地確認のうえ施工寸法及び数量を確定すること。

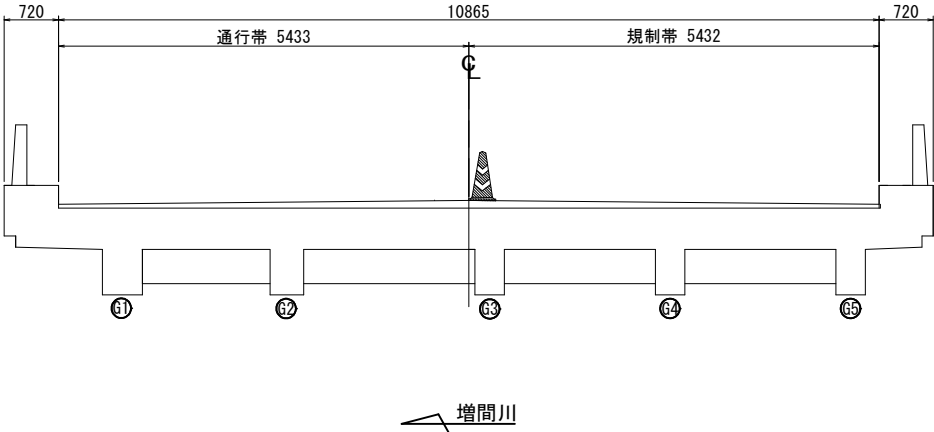
発注年度	令和 8 年度
路線河海名	一般県道 富山丸山線
工事箇所	南房総市 増間
工事名	道路メンテナンス（橋梁）工事 （増間橋・補修工）
図面名	増間橋 仮設図（参考図）
作成 年月日	令和 8 年 7 月
縮 尺	図 示
図面番号	9 / 1 1
会社名	
事業者名	千葉県安房土木事務所

増間橋 規制図(その1) (参考図)

片側交互通行規制 S=1:120
上流側規制時



断面図 S=1:50



数量表

記号	①	②	③	④	⑤	⑥
形状 名称						
数量	3	3	2	2	2	2
記号	⑦					
形状 名称						
数量	0	13	6	2	1	1

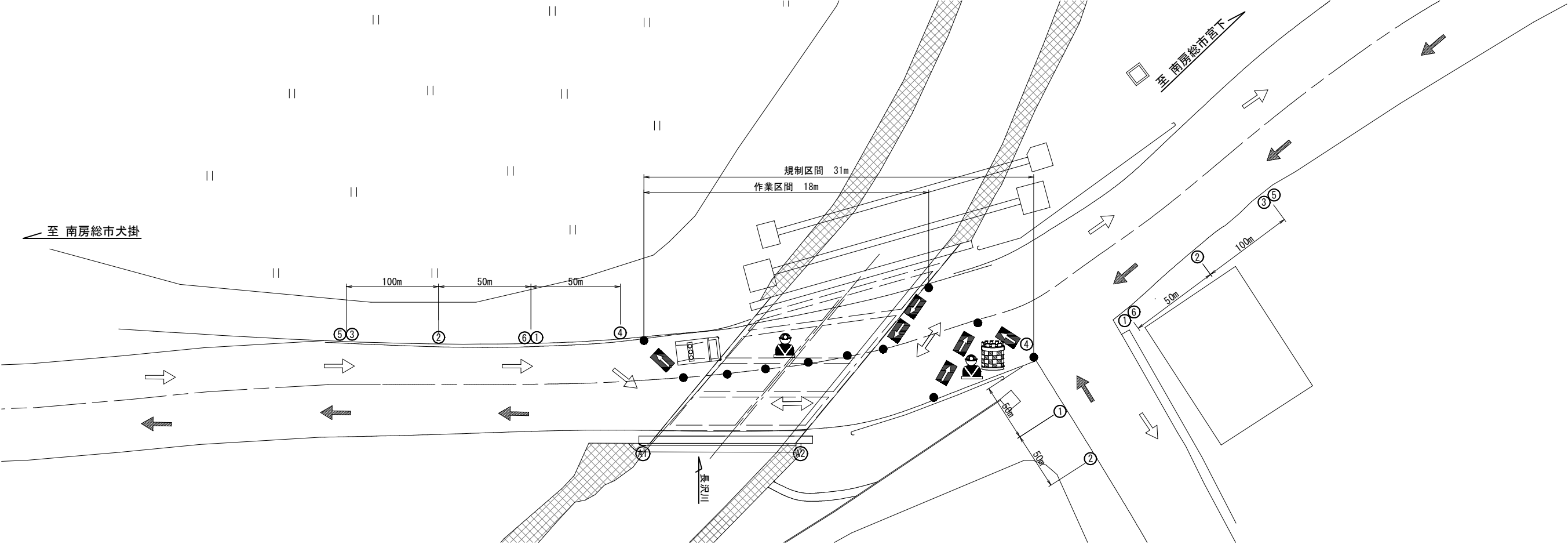
発注年度 : 令和 8 年度
路線河海名 : 一般県道 富山丸山線
工事箇所 : 南房総市 増間

工事名	道路メンテナンス(橋梁)工事 (増間橋・補修工)		
図面名	増間橋 規制図(その1) (参考図)		
作成 年月日	令和 8 年 7 月		
縮尺	図示	図面番号	10 / 11
会社名			
事業者名	千葉県安房土木事務所		

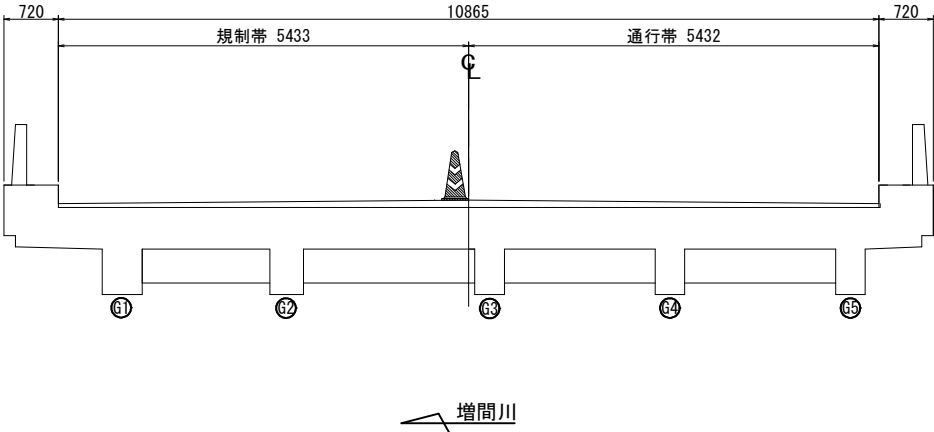
注記) 1. 施工前には現地確認のうえ施工寸法及び数量を確定すること。

増間橋 規制図(その2) (参考図)

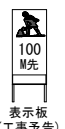
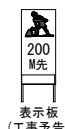
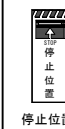
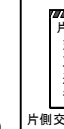
片側交互通行規制 S=1:120
下流側規制時



断面図 S=1:50



数量表

記号	①	②	③	④	⑤	⑥
形状 名称	 表示板 (工事予告)	 表示板 (工事予告)	 表示板 (工事予告)	 停止位置	 規制標識 (工事予告)	 片側交互通行
数量	3	3	2	2	2	2
記号	⑦	●				
形状 名称	 標示板 (工事中看板)	 カラーコーン	 矢印板	 交通誘導員	 標識車	 クッション ドラム
数量	0	11	6	2	1	1

発注年度 : 令和 8 年度
路線河海名 : 一般県道 富山丸山線
工事箇所 : 南房総市 増間

工事名	道路メンテナンス(橋梁)工事 (増間橋・補修工)		
図面名	増間橋 規制図(その2) (参考図)		
作成 年月日	令和 8 年 7 月		
縮尺	図示	図面番号	11 / 11
会社名			
事業者名	千葉県安房土木事務所		

注記) 1. 施工前には現地確認のうえ施工寸法及び数量を確定すること。